

1998～2000年の湿重量測定時に抽出したアミ類の種査定と計数を行い、アミ類個体数全体に占めるミツクリハマアミ (*Acanthomysis mitsukurii*) の個体数比率を算出した。

結 果

アミ類密度

全ての調査の月別、水深帯別アミ類密度を表1に、5～9月の年別、水深帯別アミ類密度を図2に示す。1995～2000年の6カ年を通して5～9月にアミ類密度が高くなった。また、3水深帯では浅い水深帯ほどアミ類密度が高くなる傾向がみられた。

ミツクリハマアミ個体数比率

1998～2000年の月別、水深帯別のアミ類査定結果をそれぞれ表2～4に示す。ミツクリハマアミの個体数比率は全体的に高く、ほとんどの調査で90%以上であった。

2000年には水深10m、15m帯を中心にミツクリハマアミ個体数比率が低い月があった。

考 察

アミ類密度変動の特徴

調査結果からアミ類密度が最高となる時期は5～9月の範囲となった。従って、アミ類密度のピークを迎える時期は年によって変動すると思われる。ただし、本報告における調査は5～9月が中心であったため、それ以外の月のアミ類密度についてはデータが十分でないことを考慮すべきである。水深5～15m帯の範囲でみたアミ類密度は浅い水深帯ほど高いこと、季節的なアミ類密度の変動は大きいことから、アミ類は5～15mの水深帯に広く分布し、5～9月に水深5m帯付近で分布密度を増加させていると考えられる。

月別、水深帯別のミツクリハマアミ個体数比率

ほとんどの調査結果でミツクリハマアミ個体数比率が80%以上を占めており、今回の調査海域に分布するアミ類の大部分がミツクリハマアミであると考えられた。当県沿岸における以前の調査でミツクリハマアミは1989年に96.9%⁹⁾、1990年に84～97%¹⁰⁾を占め、1991年に優占種¹¹⁾と報告されており、他にもミツクリハマアミは本州太平洋側沿岸の外洋性砂浜域のほぼ全

表1 月別、水深帯別アミ類密度

	単位：個体/m ²					
	1995年			1996年		
	5m	10m	15m	5m	10m	15m
1月						
2月						
3月						
4月						
5月	8,720	541	0			
6月	3,329	391	258	1,114	146	13
7月	2,702	146	26	684	883	1
8月	354	238	655			
9月	1,176	152	229			
10月				146	70	19
11月				0	0	0
12月						
	1997年			1998年		
	5m	10m	15m	5m	10m	15m
1月						
2月						
3月						
4月				3	221	1
5月	1,309	398	599	225	157	0
6月	1,427	660	314	37	130	232
7月	1,455	244	188	64	92	40
8月	136	235	470	344	155	90
9月	0	116	216	2,353	63	35
10月						
11月	142	28	23	45	59	30
12月	11	22	2			
	1999年			2000年		
	5m	10m	15m	5m	10m	15m
1月						
2月						
3月						
4月	8	5	108			
5月	164	60	40	379	4	0
6月	823	341	236	425	4	0
7月	1,281	199	262	358	118	46
8月	3,299	1,788	340	827	162	36
9月	549	102	273	2,418	4	11
10月						
11月	44	10	21			
12月				11	22	2